

東海第二原電

令和3年度～令和5年度 東海第二原電防潮堤工事（一部工事）について

- ① 鉄筋基礎建込後 掘削壁が崩れて鉄筋基礎が被害を受ける。
その結果 基礎を引き上げ解体する。
- ② 南A基礎 コンクリートが全体に回っていない。
肌が（鉄筋が）むき出しとなり、とても基礎としては使えない。
結果 背筋されていた鉄筋もピッチが乱れて、図面と違った配筋状況になっている。
- ③ 安定液（地層を支持する液）の検査結果をごまかしている。
結果 地中壁が崩れたり、コンクリート打設に際して生コンが鉄筋にきちんと回らない。（充填されない）
- ④ 北A基礎 設計値に（掘削深度）鉄筋が届いてない。
8ブロックで基礎が構成されるため、基礎としての強度が保てない。また、鉄筋の並び（配筋）状況も他の箇所とそろわない。
結果 基礎本来の今日度が保てない。
この際 鉄筋が先の（先行）何らかの影響で形が変わり 引っ掛かり 引き抜くことも出来ない状況を隠して、安藤間JVに報告
本来引き抜き鉄筋の状況を確認しなければならないところ 先行鉄筋と後行鉄筋が絡んだ状況となり、引き上げ、沈設ができなくなってしまう、嘘の報告でコンクリート打設まで持ち込む。
- ⑤ その後も、後期遅れを取り戻すため、安定液のデータを虚偽
コンクリート打設時の 嵩上がり（一度に17立米）を虚偽報告
安定液の比重を虚偽報告しているため、生コンが基礎に回っていない状況と思われる。
（職員は分かっているが）A基礎以外は掘削されない（基礎が地中のため）、仕上がりが悪くても発覚されないと笑っている。

以上、様々な問題に対して真摯に向き合わず、問題を隠蔽して工事さえ完了してしまえばいいと思われる姿勢に疑いの気持ちをかくせません。

防潮堤工事は原子力発電所を守るだけでなく、国民の命を守る 福島悲劇を繰り返さない本当に重要なプロジェクトと思います。

コンクリートが入っていない基礎は、腐食も早く基礎としての強度もたもてません

その様な基礎に 上部の防潮堤を20m以上の高さで組み上げても、早くに陥没したり、もしも津波が来ても防潮堤としての役割が果たせるか疑問です。

企業としてのコンプライアンスはどうなっているのか？基礎工事専門？業者としてのプライドは・・・(掘削機)は操作が初めてのオペレーター、職人もほとんどが素人 職員も数十人が退職職人も暴力により数十人が退職や夜逃げ・・・

問題を問題として扱わない 安藤間の100パーセント持ち株会社 [REDACTED]
今後も同様の工事をして、隠蔽するのかと思うと本当に不安です。

隠すことを主体とした体質 工事屋としてのプライド 人としての立場 すべて疑われます。

この問題が公になったとしても、自分たちを守ることに一生懸命でしょう。問題を提起した人物を恨み、自分たちは正当化することに躍起となることだと思います。昨今、大成建設さんの不備やいろいろな工事現場で同様の工事ミスが指摘を受けて、世間を騒がせています。真摯に誠実に向き合って改善されることを願います。